

## 第4回

# 「益田市総合教育会議」会議録

と き 平成27年7月17日（金）16:00～

ところ 市役所 3階 大会議室

益 田 市

## 第4回 益田市総合教育会議

招集年月日 平成27年7月17日（金）16時00分～

招集場所 市役所 3階 大会議室

### 議事日程

- 1 あいさつ
- 2 議事録署名者の指名
- 3 議事
  - (1) 岩手県中2男子生徒いじめを苦に自死したと見られる事件について
  - (2) 益田市におけるいじめの状況について
  - (3) いじめ問題対策連絡協議会
- 4 その他

出席者

益田市 市長	山本 浩章
教 育 長	村川 修
教 育 委 員	永田 千秋
教 育 委 員	水上 芳枝
教 育 委 員	渡辺 隆

出席事務局職員

教 育 部 長	川原 敏之
教育総務課長	島田 博
教育総務課長補佐	寺戸 一弘

教育委員会職員

学校教育課長	澤江 幸実
学校教育課派遣指導主事	兼子 史寛

福祉環境部

子育て支援課参事	中山 洋司
----------	-------

会議傍聴者 7名

島田課長       それでは時間になりましたので、第4回益田市総合教育会議を始めてまいりたいと思います。渡辺委員につきましては他の会議と重複しているということで遅れて来られます。またこちらに到着次第参加されますのでよろしくお願ひします。それでは市長から挨拶をお願ひいたします。

山本市長       今日は大変お忙しいところ、また大変足元の悪い中、急きょ総合教育会議を開催しましたところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。また日頃から益田市の教育施策をはじめ、市政全般にわたりましてご理解ご協力を賜わっておりますことを改めてお礼を申し上げます。今回が4回目の総合教育会議ということになりますが、これまで過去3回は益田市の「教育に関する大綱」の策定のためにお集まりいただきました。そもそもこの総合教育会議というのは教育に関する大綱の策定と教育の後を進める上での重点的な施策をこうするべきという内容を指示いただくということと、それから生徒の生命・身体に現に被害が生じたか、もしくは被害が見込まれる緊急の場合に講ずべき措置を話し合うために開催するものであります。今回特に現に被害が発生するか、もしくは見込まれるという状況はありませんが、岩手県の方でいじめ事案がございましたので、益田市として再発防止のために執ることがあるんじゃないかという思いがあつて開催をさせていただき次第でございます。よろしくお願ひいたします。冒頭のあいさつは以上とさせていただきます。

島田課長       それでは議事につきましては今までの会議に沿ひまして、市長の進行ということで進めていただきたいと思います。

山本市長       それでは初めに議事録署名者の指名をさせていただきます。本日は永田委員さん、水上委員さん、お願ひいたします。では、早速議事に入ります。まず1番目としまして、岩手県の中二男子生徒がいじめを苦に自死したとみられる事件についてです。まずこの件につきまして私が感じているところを申し上げます。今回は私も新聞報道等で知るところですが、この生徒さんは学校での連絡ノートにおいて担任の先生に対してSOSのサインといいますか、たびたび困った状況を伝えていたようでもありますけども、残念ながらそれが深く受け止められずに具体的なアクションを起こしたという形跡があまり見えない、さらには担任以外の教員にそれがどうも共有されていなかったということであつたかと思ひます。したがひまして、いじめ防止、もしくはいじめによるこうした被害が起こらないようにするためのいろんな取り決めといひますか、制度は既にあるかと思うんですけど、それが実際に機能されなかつた、活かされなかつたということですので、益田市においても同様なことが絶対にあつてはいけなひ、またそうした取り決めがきちんと機能するようにもう一回確認をしておく必要があるんじゃないかというふうに思つたところです。またこの総合教育会議というのは教育委員会の

皆さんと市長部局が協議調整する場でありますので、今一度全体に注意喚起をしたいという思いがありました。学校現場、それから教育委員会、市長部局で今講じておくべきことがもしあるのであれば万全を期したいという思いを持っているところです。ぜひ皆様からも率直なご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

永田委員

私もこの事件を見てとてもショックを受けたんですけど、連絡ノートにSOSのサインがあってそれに気付かなかったということで、主に担任の先生がすごく悪いような感じで報道されているんですけど、根本的な問題はやっぱり学校の体制が十分でなかったのかなと思っております。この先生がSOSに気付いた時にすぐ隣の先生に話すとか、生徒指導部に話すとか、それでなくとも何気ない普段の先生との会話の中からもいろんな意見が出せたんじゃないかなと思います。実は1年生の時もそういうことがあったということなので、この先生は自分だけの問題にしていたということなんですが、その時の担任の先生との間で引き継ぎがどうだったのかだとか、いろんなことを考えるとやっぱり学校の体制が十分でなかったのかなと思います。相談できないような雰囲気がかしたらあったのかもしれないですけど、私が教員をしていた頃はすぐ隣の先生や学年部の主任の先生に相談をされていて、私一人では絶対に無理なことも多かったように思い出します。また現場の職員の様子を見ると年々教職員の人間関係が希薄になっているということも感じておりまして、各先生方にはパソコンが1台ずつ配付されていて、パソコンに向かっていたら仕事をしているような雰囲気を受けるんですけど、パソコンがあるがゆえに教職員の日頃の会話が減っているんじゃないかなということを感じています。仮にパソコンがなかったら、授業から帰ってきて今日あの子はどうだったとか、顔色が悪く元気そうになかったけどどうなのかだとかいう話ができるんですけど、すぐパソコンに向かって教職員同士の会話が少ないというのが最近の傾向であるかなと思います。それからもう一つは親自身が子どもに対して気付くことがなかったのかなということも感じています。やっぱり先生以上に親が子どもの様子を見て元気がないだとか、1年生の頃からそうなら何かしら気付いてあげることがあったかと思うんです。気付いたらすぐ担任の先生や養護の先生、それからカウンセラーの先生なんか相談をする必要があると思いますし、担任の先生だけをせめるんじゃなくて、そういった親の責任といいますか気付きの部分にも疑問を感じているところです。

水上委員

実は先日永田委員さんと松江に行った時にちょうど事件の後だったのでこの話をしまして、今言われたようなことをお互い話したんですけど、私だったら親の立場、それから地域のおばさんの立場で言うと、親だったら例えば学校の先生との面談の時などに、こういうノートが出されて

いるんだったらこんな言葉がありましたけどご家庭ではどうですかとかいう一言でもあれば、少し共有するチャンスがあったのかなとふり返ってみて思いました。普段のその子どもさんの様子は全然想像の範囲だけですけど、写真とかを見るととてもあどけない少し幼いようなかわいらしい生徒さんだったんですけど、普段の子どもさんが学校や親、友達との様子がどうだったのか全然想像する範囲しか分かりませんが、やっぱり先生にどれだけ自分の気持ちを伝えていたか、それが文章に書いてもそれが本当の気持ちだったのか少し冗談めいて取られるような普段から先生との関係だったのかも分からないんですけど、やっぱり一番は文章としてそこに残っている以上職員の方で少し共有する学校の体制というのが必要だったんじゃないかなと思います。私達外部者が知る材料としてはノートが報道で前面的に出ている以上大事なポイントだったような気はします。それからアンケートで何人かの生徒から友達との関係や部活動の関係のことでいじめの状態についていくつか出てきておりますけれども、やっぱり親というのは一番近くにいる大人ですので、仕事とかいろんな忙しいことがあるとは思いますが、こうなって後悔してからでは遅いので、顔を見るとか、いってらっしゃいの一言や学校はどうだったの一言をかけるだとか、たったそれだけでもいいので、そういう心掛けというのが大事だなと痛切に感じました。

村川教育長 今回の事件については、まだ報道されている内容しか分からないんですが、我々の立場で言いますと、過去にもいろんな事件があったりして、いろんな仕組みができていて、例えば平成25年にはいじめ防止対策推進法がというかなり大きなものが作られまして、法律で様々な基本方針や組織を作ったりというようなこともありまして、かなり大きく動いたのがその年でございました。それ以前にも当然いろいろなことがあって、仕組みというものがきちんとできていまして、さらに大きな事件があるとさらに大きな仕組みができるというように変遷をしてくれているわけです。今回の事件なんかは仕組みはあったんですがそれがきちんと機能していたかどうかが一番大きな課題であろうと思ひまして、先日市内各学校の教頭先生と話をする機会がありまして、そこでいろいろ話をしたところ、相当意識が高いということを感じました。こういう事件があつてすぐ学年主任や生徒指導主任を通じて、あるいは直接先生達と話をしておられまして、今回の事件がきっかけで相当動いておられるようでした。それを聞いて安心している気持ちもあるんですが、話をした思ひながら、やはり仕組みがあつてもそれが日頃の意識として常に機能しているかどうかということで、それがなくこういうことが起こり得るということですので、その仕組みを各先生が役割を果たしているだろうかということの日頃から管理職が意識を確認することが大切でありますの

で、改めてその確認をしていかなければならないと感じております。

渡辺委員

私は人権擁護委員もしているんですが、やっぱりこうしたいじめというのは人権侵害になっているわけでありまして、報道で見聞きしますと、子ども達がいじめについて知っていたという部分があって、どうしてそれを見て見ぬふりをしていたのかなというところが気に掛かってならないんです。そこで子ども達ともっと深く話をしながら、目線を同じにしながら正義感を育む取り組みの姿勢というのが欠けていたんじゃないかなと思います。学校の先生方や保護者の方の気持ちというのは随分理解できるんですが、事件が起きた後にこういう対策をしていたとか、こういうところが不足していただとか評論的なことをやっても意味がないと思うんです。事件を絶対に起こさないということが一番大事なことです。こうした事例を踏まえて子ども達が普段いじめの現場を見た時に、そうしたことはさせないよう注意をするというような子ども達の気持ちを育てていくことが大事だと思います。

山本市長

いろいろとご意見をいただきましたが、大きく分けて4点あったかと思えます。1つ目は生徒からの救済を求める声が文面で届けられていたにも関わらず共有されていなかったということで、情報共有の体制、あるいは教員同士の人間関係の希薄さあったんじゃないかということ。2つ目は日頃から一番に接している親が気付いてあげて、言葉掛けを欠かさないと、不審があればすぐに学校や先生、スクールカウンセラーに相談すべきであったんじゃないかということ。3つ目はいじめ対策防止法という法律もありますし、いろんな取り決めや仕組みがある中で、それらがきちんと機能するための普段の努力が必要であるということ。4つ目は学級の中でもこうしたいじめを絶対に許さないという児童・生徒の思いを育てる教育が必要なんじゃないかということ。以上4点があったかと思えます。貴重なご意見をいただきありがとうございます。それでは議題の2番目に参りたいと思います。益田市におけるいじめの状況について教育委員会事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

澤江課長

お手元にいじめについてという資料をお配りしております。益田市のいじめの状況についてまとめたものでありますが、これについて学校教育課の生徒指導をしております兼子から説明を申し上げます。

兼子派遣指導主事

いじめについてでございますが、2番のところをご覧ください。益田市内の状況について経年比較をしております。平成26年度のいじめ件数は小学校が16件、中学校が14件でありまして、その内解消したものは小学校が14件、中学校が13件でありました。残りの小学校2件、中学校1件については一定の解消はしつつあるんですが継続中ということになっております。

山本市長 分かりました。その他にいじめの実態を把握するための取り組みや仕組みはどういう状況になっておりますでしょうか。

兼子派遣指導主事 いじめの実態を把握するために各学校でアンケート調査を学校によっては無記名で提出させたり方法は様々でありますが行っております。それに併せて集団の中における児童・生徒の状況を把握するために、年に2回アンケートQUというものを実施しております、このアンケートQUを分析する中で子ども達の置かれている状況を判断して、対応が必要な場合には具体的な対応を考えております。日頃から子ども達と積極的にコミュニケーションを取る中で実態を掴むということもありますし、連絡ノートのようなものは益田市内の小中学校でも行っておりますので、そういったものを活用する中で状況を把握していくということもあります。それから各学校が定期的に教育相談というものを行っておりますので、その中で子ども達のほうから相談が出てくるケースもありますし、また学期末には保護者と担任が面談をしておりますので、その中で保護者のほうから相談が出てくるというケースもあります。

山本市長 今回の岩手県での事案を受けて何らかの対応というものはございますでしょうか。

兼子派遣指導主事 教育委員会ではこの事件を重く受け止めて、7月16日付で各学校へいじめへの対応についての通知文を出しております、お手元にその通知文をお配りしておりますが、留意事項のところ5点のお願いをしております。1つ目は各学校がいじめ防止基本方針というものを作っております、これについて共通理解を図ってくださいということ。2つ目は先程もあったように組織が作ってあったとしてもそれがきちんと機能するものでないという意味がないということで、それを機能させることができるのか、それから実際にいじめが起きた時にその組織が機能的に動いているのかということ。3つ目はせっかく子ども達からの相談があっても担任のところ止まってしまうということがないように、お互いに情報を共有して対応しているかということ。4つ目はいじめ防止基本方針を作ったけれどもその内容について常に検討して必要に応じて見直すことが定期的になされているかということ。5つ目は夏期休業中であっても常にいじめに対する危機感を持って気になる子どもについては家庭と定期的に連絡を取って発生の未然防止に努めているかということ。それらを大事な視点として通知文を出しました。

山本市長 状況について一通り説明をしていただきました。平成26年度の説明に小学校2件、中学校1件については継続中とありましたが、現在どういった対応を図っているかお聞かせ願えますでしょうか。

兼子派遣指導主事 継続中の事案についての具体的な対応は把握をしております。今学期の状況について夏休みが終わった時点で報告してもらおうことになっ

ておりますので、その時に確認をしたいと思っております。

山本市長

分かりました。継続中ということですので問題がなくなったわけではないということで、教育委員会としても引き続き注意して欲しいと思います。問題が学校現場や認知されているということはまだ救いがあり、認知されていない事象があるかもしれませんので、こうして昨日付で学校に通知をされたようですけれども気が付いていない問題がないかを引き続き調査・発見に努めることを行っていただきたいと思います。皆様から何かご意見ありますでしょうか。

永田委員

ここに上がっている数字をそれぞれ先生方も意識して何とか解消しようと努めておられると思うんですが、市長さんも言われたようにここに上がっていない数字がまだまだあるような気がするんです。その辺をどのように捉えて未然に防ぐかというところが大切だと思います。連絡ノート等で担任の先生とやりとりをされると思うんですが、こうして大きく取り上げられると担任の先生も大変になってもう連絡ノートをやめるという先生ももしかしたらおられるのかなと思うんです。その辺は教育委員会で先生方をしっかりカバーして子ども達が先生と本当の人間関係を作って自分の思いを出せるようにフォローしていくことがこれからの教育委員会の大切な立場になるんじゃないかなと思います。

兼子派遣指導主事

定期的に学校に訪問しておりますので、また生徒指導担当を含め管理職の方と今おっしゃられた教員と子ども達との人間関係作りを初め、そういったことについて話をしていきたいと思います。

水上委員

今永田委員が言われたことはとても大事だと思うんですが、ここにあげている16件とか14件というのについて支障のない範囲でお伺いしたいんですが、どういう形で把握をされたんでしょうか。例えばアンケートの情報が多かったとか、子どもが相談に来たとか、親との面談の中で発覚したとか、どういう状況の中で分かった事例が多いんでしょうか。なかなか子どもが直接先生に相談するというのは少ないような気がするんですが、発覚した方法が分かれば教えていただけたらと思います。

兼子派遣指導主事

いじめられた子ども達の相談状況が数値で上がっているんですけど、ほとんどが保護者や家族に相談したというケースになっております。次に多いのが学級担任に相談したというケース、次に学級担任以外の教職員に相談したというケースです。学級担任以外というのは養護教諭とかスクールカウンセラーのことです。大部分がその3つの形で状況が把握されたという形になっております。

水上委員

ありがとうございます。ということはやっぱり子ども達が普段接している周りの大人、保護者も担任の先生も学校の職員もすごく大事なポジションにおられて、それから益田の子ども達が大人を頼るシーンが多いということは私たち大人も改めて意識することが必要だと感じました。

山本市長　いじめがなかなか表に出てこない理由として、いじめられている本人が周りの大人に伝えることでより酷くなるんじゃないか、報復があるんじゃないかという恐れがあるのと、もう一つは本人がいじめられているということをプライドが認めたくないということもあると思うんです。ということはいかに周りの大人が子どもの悩みを訴えやすい環境を作るか、人間関係を作るかということが本当に大事だと思います。今回の岩手県の事件もおそらくここで言う16件や14件にあがっていないところからのものだと思うんです。あがっているということはまだ子どもに訴える力があつたということだと思うんですが、訴えることができずに苦しんでいる子がこの益田市にもいるかもしれないということを考えると、それを救う努力を我々はしていかなければならないと思います。

村川教育長　昔ももちろんいじめはあつたんでしょうけど、今こうして増えてきているのも事実でありまして、子ども達がいろんな人とコミュニケーションを取る環境がおそらく減ってきてしまっているというのがそういうことに繋がってきているのだと思います。核家族化が進んで家庭での教育力が低下したり地域の教育力が低下しておりますので、そういった環境による影響もあると思います。学校だけではこの問題は解決できないだろうと思っております、家庭での人間関係であるとか、地域との関わりが希薄になるとあまり良くない影響が出ると考えております。去年の2月に益田市が情報リテラシーの向上推進協議会というものを作りましたが、スマートフォン等に関わる時間が増えることで家庭での人間関係が希薄になり、様々な影響が出てくることもありますので、小さい頃から人間関係というものを育てていくことを地域全体で取り組んでいくことが大切だと思います。広い観点でいじめについて考えて解決していくことがこれから必要であると考えています。

渡辺委員　私が子どもの頃もケンカやいじめというものがありました、いつの間にか仲良くなって一緒に遊んだりというように元に戻っていたんです。今回あげられているいじめについてはどんなものなのかは分かりませんが、随分陰湿なものや集団で個人をいじめるといふものはあまり表に見えませんが、面白半分で行っている部分があるのかは分かりませんが、やって良いことと悪いことの判断ができるように教育していく必要があると思います。やはり学力だけでなく人間作りも大事な部分であると思いますし、それについて地域をあげて取り組んでいくだけの覚悟がないとなかなか解決しないと思います。これからの将来を作る子ども達を今育てておかないとこれから大変なことになると思いますし、そういう地域の宝を育てて支えていくことが生涯学習だと思うんです。ただ子ども達を集めて遊ばせておけばいいというものではなくて、大人が

きちんと教えておかなければいけないものがありますから、そこを大事にしていかなければいけない気がします。

永田委員 少し気になっているのが平成23年度は小学校で2人だったんですが、24年度が35人に増えているんです。これはいじめと判断する基準を変えたからなのか、それとも急に増えたのかどちらなのでしょう。

山本市長 24年度に大津のいじめ事件があって、それで意識が高まって増えたということだと思うんですけどどうなのでしょう。

兼子派遣指導主事 そのとおりです。

山本市長 影に隠れる一つの大きな要因としてインターネットの普及というものがあるかと思います。子ども達がインターネットを使うようになって、一昔前では裏サイトというものがあったり、今ではLINE等で全く表に出ないところでいじめに類するような仲間同士の付き合いのようなものもあるかと思います。したがってより目に見えにくいものとなっておりますので、余計気をつけないといけないと感じました。それでは続いて議題の3番、いじめ問題対策連絡協議会について事務局のほうから説明をお願いいたします。

澤江課長 平成25年12月6日に益田市小中学校校長会に対して説明を行った時の資料をお配りしております。これまでの経緯というところがありますが、まず平成24年7月に滋賀県大津市のいじめ事案がありまして、いじめが社会問題として大きく取り上げられました。これを受けて国が平成25年6月にいじめ防止対策推進法を作っておりまして、それから10月にいじめの防止等のための基本的な方針を策定しております。県や市町に求められていることというところがありますが、地域基本方針の策定、いじめ問題対策連絡協議会の設置、教育委員会の附属期間の設置の3つについては努力義務という形になっておりまして、また学校に求められていることというところの、いじめ防止等のための対策に関する基本方針の策定、いじめ防止等の対策組織の設置の2つについては義務付けられているという形になっております。学校が実施すべき施策というところでは、いじめ防止対策推進法で義務付けられている中で、学校いじめ防止基本方針の策定、いじめ防止等の対策のための組織作りの2つについて謳っております。いじめ防止基本方針というところで、このことについて具体的な内容の例というものを提示しております。実際に学校に対していじめ防止基本方針の案を示しまして、それに基づいて具体例を提示しました。そのため現在益田市の全小中学校におきましてはこの2点について既に完了しております。重大事案発生時の対応というところでは、基本的な方針案を示した段階で対応パターンについても示しておりますので、万が一そのようなことがあった時には連携して対応していくような形になっております。先程言いました地域基本方針の

策定といじめ問題対策連絡協議会の設置の2点については努力義務ということでもありますので、実際には現時点では設置をしておりませんが、現在関係機関と調整を図っている段階でありますので、早急に策定及び設置をしたいと考えております。

山本市長

いじめ防止対策推進法の内容について説明をいただきました。学校においては、既に教育委員会の指導といいますか施策もありまして、各学校の基本方針の策定と、いじめの防止等の対策のための組織についてはもう作られているということでした。また自治体に求められている地域基本方針の策定と、いじめ問題対策連絡協議会の設置がまだということで、早く進めたいということでした。先程渡辺委員からお話がありましたが、いじめの問題というのは子ども達にとって学校で過ごす時間が最も長く、生徒同士が触れ合う場でもありますので、最も大きな機会・時間であると思うのですが、我々地域の大人達がそうしたものを見過ぎさない、もしくは許さない風土を作るということも大事だと思います。学校では既にそうした方針・組織ができていますが、やはり益田市としては市全体の中でいじめを防止するための方針なり、こうした協議会が必要だと思います。したがって、努力義務ではありますが、ぜひ早めにこうしたものを立ち上げ、作っていきたいと思います。皆さん他にご意見ご質問ありますでしょうか。

村川教育長

この協議会については早急に取り組んでいかないといけないと思っております。学校と警察との連絡協議会というのがありまして、いろんな事件が起きた時にはすぐ対応できるような形をとっております。先程市長さんが言われたように、インターネットの関係で非常に大きな社会問題になっておりますので、情報リテラシー向上推進協議会で児童相談所や教育事務所、あるいは民間の事業所も含めて研修や情報共有などの取り組みを具体的にやっております。今行っている事を組織としてしっかり整えていく必要がありますので、改めて必要な中身だとか、いじめだけではないいろんな問題行動についての協議をして、しっかり対応していきたいと思っております。

水上委員

地域の力というものはやはりすごくあると思うんですが、今いじめに対しての地域の意識は薄いと感じています。例えば朝いろんなところに立って交通指導をしたり、子ども達の様子を見るということがあると思うんですが、元気かな、朝ご飯をしっかりと食べたかな、という意識で子ども達を見ている方が多いと思ひまして、つまらなそうに学校に行っている子どもの姿を見て、この子はもしかしたら学校でいじめられてるのかなという意識で見る大人というのはやはり少ないと思うんです。何か機会があったらそういう意識で子どもを見るということを皆に呼び掛けるということのもすごく大事だと思いますし、学校に行かない子が隣近所に

いると気にされる大人が多いとは思いますが、親が朝ごはんを食べさせてないとかそういう視点で考える事はあると思うんですけど、それを子ども同士のいじめという視点で考えるという意識付けを高めていくというのが、校外でいじめを発見する一つの方法ではないかなと思います。特にこれから長期の休みに入ったりして、子ども達があまり外で遊ばないにしても、お店等の中でのやりとりであるとか、そういうシーンを見た時に気付くきっかけになるのではないかなと思いました。

永田委員 先程説明があったことについて必要だと感じていますので、早いうちに取り組みされることを期待しています。いじめを発見した時にどこに連絡したらいいのかというのが分からずに、ここに連絡したら伝わるという、何か簡単にここに連絡を入れられるような方法があれば、市民の人もそこにすぐに連絡して、あの子が少し気になるというような連絡ができると思います。いじめを目にしても教育委員会や学校に言うのはどうかなと考える方もおられるかと思うので、何か気軽に相談できる場があるといろんな情報が入ってくるのかなと思いました。

村川教育長 今のような対応をする組織といいますか、公の機関だけではない地域での環境作りというのにも必要だと思っております。昨年から特に力を入れておりますつろうて子育てプロジェクトでは、地域ぐるみで子育てをする組織作りを強化しているんですが、誰もが子育てに関心を持ったり、関与したりというような形で、教育熱心な方をできるだけ増やして行って、子ども達の活動にどんどん繋げていきたいと考えております。ちょうど夏休みが始まったところですが、自然体験や様々な行事に皆で関わっていくことによって、子ども達が地域の人達と馴染んだり、いろんな会話を通じて育ったり、先程渡辺委員さんが言われた正義感を教える人に出会ったりすることで、非常に良い環境ができていくと思います。そういうところからいじめというものも解決に繋がっていくだろうと思ひまして、組織をこれから作っていくことが、先般できました教育に関する大綱の中のふるさと教育や様々な子育てとの一体化に繋がっていくと思ひています。

渡辺委員 今国も一生懸命になって対策を講じておりまして、手紙を出すよう要請をしたり、電話をするよう番号を教えたりということをお願いしておりますが、子ども達はいじめられているという思いはあっても、学校の先生には中々言うことができないという雰囲気もあろうかと思ひます。そうした時には学校外にもいろんな組織がありまして、学校で言えなくてもここに電話をしたら相談に乗ってもらえるだとか、手紙を出せばきちんとした対応と一緒にアドバイスを受けられるというものもありますので、学校の中だけで先生達だけが全部解決しなくてはならないというような思いばかりでなくて良いと思ひます。皆でいじめをなくして

いかなければいけない、困っている子ども達がいたらみんなと一緒に助けようという思いを皆さん持っていますので、先生達もあまり固くならず、もっといろんな組織もあるのだからというような形の中でやっていったほうが良いのではないかと思います。

山本市長

だいたい時間が経過いたしました。いろいろと実のある意見交換ができたのではないかと考えております。本日の総合教育会議においては、一つの大きな結論として、いじめ問題対策連絡協議会の設置、あるいは地域教育方針の策定を急いで進めていくべきだろうということで、これは地方公共団体の責務、努力目標ではありますが、早急に進めていきたいと考えております。こうした連絡協議会の設置によって、学校以外のところにもいじめへの相談等が気軽に寄せられるようなまちづくりをしていかなければいけないと思ったところです。また教育委員会においても岩手での事案を受けて学校現場へ対していち早くこうした確認の通知をされたということで、非常に良い対応だったと考えておりますので、それについて感謝申し上げます。それでは以上で本日の第4回益田市総合教育会議を終了したいと思います。本当にお疲れ様でした。

終了時間 17時00分

平成27年9月25日

益 田 市 長

益田市教育委員

益田市教育委員